

西表島における自然環境の保全上の課題と取組

世界自然遺産登録に向けた課題	現状	将来的に発生する可能性がある問題点	これまでの取組	取組の成果及び今後の課題
(1) 固有種、希少種及びその生息地・生育地の保全				
構成資産の確実な保護担保措置	○山頂から海岸までの亜熱帯雨林が良好に残っており、その多くが森林生態系保護地域、国立公園、鳥獣保護区によって保護されている。	世界遺産登録に際しては、遺産価値の効果的な保護のために必要な境界線の設定と管理基準の明確化が求められる。	○西表石垣国立公園等の区域拡張に関する作業【環境省】 ○西表森林生態系保護地域の保全管理計画の検討【林野庁】 ○国指定西表鳥獣保護区の指定更新等に関する作業【環境省】	○世界自然遺産の推薦に先立って、自然環境保全地域及び国立公園の拡張に向けた調整が進められている。森林生態系保全地域については、保全管理計画の策定が進められている。 資産の適切な保護のため、必要に応じて緩衝地帯の設定を行う。
希少種の適切な保護・増殖	○多くの希少種が生息・生育しており、各種調査や保護の取組が行われている。 ○イリオモテヤマネコやカンムリワシ等の交通事故による被害が増加傾向にある。 ○ナリヤランなどの盗掘やヤエヤマセマルハコガメ、ヤエヤママルバネクワガタなどの密猟が問題となっている。	○来訪者が増加することにより、交通事故や密猟・盗掘による被害が増加する可能性がある。 ○人が多く入域することにより、警戒心が強い野生動物の生息を脅かすことになる可能性がある。 希少種に対するペットや鑑賞種としての価値が高まれば、盗採密猟の危険性も高くなる可能性がある。 リゾート開発などによる希少種の生息・生育環境の改変のおそれがある。	○保護増殖事業の継続実施（イリオモテヤマネコの生息状況調査、交通事故防止対策、普及啓発等）【環境省】 エコロードによるアンダーパス設置等の対策【沖縄県】 イリオモテヤマネコ生息保全調査【イリオモテヤマネコ生息地保全調査委員会】 やまねこパトロール【NPO トラ・ゾウ保護基金、地域住民・竹富町】 カンムリワシ生息状況調査【環境省】 イリオモテボタル緊急保全対策【環境省】 キシノウエトカゲ生息実態調査【沖縄県】 希少植物の分布情報の収集【林野庁】 西表石垣国立公園における指定植物点検調査【環境省】 昆虫類分布調査【環境省】 西表島における希少野生生物保護管理事業等（カンムリワシ、イリオモテヤマネコ）【林野庁】 ヤエヤマヤシの生育状況調査【林野庁】	ヤマネコの生息状況モニタリング調査によって沿岸部のヤマネコの生息状況の把握や個体識別が進んでいる。各個体の健康状態のチェック等にも役立っている。 ヤマネコの保護増殖事業の実施内容については継続したデータの蓄積がなされているが、現状に合わせた今後の計画が必要である。 カンムリワシについては継続的な生息状況調査が行われている。生態等の調査の必要がある。 ○密猟・盗掘対策が十分ではないため、パトロール、普及啓発、条例の制定等の対策が必要である。 ○交通事故（ロードキル）対策として、アンダーパスの設置、注意喚起の看板の設置、普及啓発、パトロールが実施されている。また、「人もヤマネコも」というスローガンのもと連絡会議を設置し役場や公民館との連携を強めている。又救護施設を設置するなど救護体制が整備され初の交通事故からの野生復帰個体もでていた。ただ、イリオモテヤマネコ等の交通事故は依然として高い水準にあることから、特に事故多発路線・区間等に対しては、道路構造の改良等による道路への希少種の侵入防止対策の強化、夜間の車両通行規制やスピード抑制のための対策が必要である。また、地域住民の意識の向上も図らなければならない。 関係機関が情報の共有を行い連携と役割分担のもとで、取組みを進める必要がある。
(2) 外来種による影響の排除				
侵略的外来種の効果的な防除	海岸・道路沿いを中心に外来植物が定着している。 ○石垣島等からの新たな外来種の侵入のおそれがある。 イノブタとリュウキュウイノシシの交雑が懸念される。 ノネコによるイリオモテヤマネコへのネコエイズ等の病気の感染が懸念される。	○島外からの来訪者や物資の移動の増加、各種開発行為等の増加により、意図的・非意図的を問わず、外来種の侵入・定着が増加する可能性がある。	外来樹木（ギンネム、ソウシジュ、モクマオウ）の分布状況調査【林野庁】 ギンネムの駆除試験の実施【林野庁】 八重山諸島の外来種に関する普及啓発パンフレットの作成【環境省】 竹富町ねこ飼養条例【竹富町】 飼い猫のウイルス検査、ワクチン接種、不妊化手術、猫へのマイクロチップの挿入【九州地区獣医師会連合会、沖縄県獣医師会】 ノネコの島外搬出事業【環境省】 港におけるカエルツボカビ菌消毒マットの設置【環境省】 オオヒキガエル、シロアゴガエル等の監視【環境省】 西表石垣国立公園における外来生物調査駆除事業【環境省】	○外来植物については駆除試験やモニタリングによる対策が実施されている。 石垣島からのオオヒキガエルの侵入を防ぐために監視が行われており、本種の侵入事例はあるものの定着は確認されていない。 ネコのうち、飼いネコについては飼養条例が制定されており、飼いネコの登録と合わせてウイルス検査、ワクチン接種、不妊化手術とマイクロチップの挿入が行われているが、今後も住民の理解・意識向上のための普及啓発を行う必要がある。 他の侵略的外来種の侵入状況の確認及び優先的対策に関する検討を進めるとともに、侵略的外来種の侵入・拡散の未然防止のための方策や体制についても検討を進める必要がある。 関係機関が情報の共有を行い連携と役割分担のもとで、取組みを進める必要がある。
(3) 生息・生育地の維持・改善及び生態系の機能強化のための計画的・能動的な自然再生の推進				
希少種の適切な保護・増殖	(1) にて前出	(1) にて前出	(1) にて前出	(1) にて前出

世界自然遺産登録に向けた課題	現状	将来的に発生する可能性がある問題点	これまでの取組	取組の成果及び今後の課題
<p>生息地・生育地の改善回復のための自然再生</p>	<p>○過去の開発や利用等により劣化が生じている場所が存在する。緩衝地帯として想定される、イリオモテヤマネコやカンムリワシの採餌場である水田や茅場などの農地が耕作放棄により荒廃している。湿地の陸地化が進み水生生物等の生息が脅かされている。</p>	<p>採餌場の一つである農地が荒廃することで、道路を採餌場として利用する動物が増え、事故が増加する可能性がある。</p>	<p>自然環境の保全に関する指針（八重山編）の作成【沖縄県】 西表島森林生態系保全管理計画の検討【林野庁】 マングローブ林のモニタリング調査【林野庁】 石西礁湖自然再生全体構想の策定【石西礁湖自然再生協議会】 船浦ニッパヤシ植物群落保護林モニタリング【林野庁】 マングローブの立ち枯れ箇所のモニタリング【林野庁】</p>	<p>緩衝地帯及び周辺地域を含めた西表島の一体的な生態系、生物多様性の保全に向けた取組が、関係行政機関の連携・協力のもとで進められることが期待される。 ○農地の緩衝地帯としての機能については、自然環境の継続的なモニタリング等の調査結果を踏まえ、検討を進めていく必要がある。</p>
(4) 遺産価値の保全と持続可能な利用との両立				
<p>適正な利用・エコツアーリズム等の計画的な推進</p>	<p>新石垣空港の開港に伴い、観光客の増加が見られるが、特に日帰りの通過型観光が増加する傾向にある。竹富町観光振興基本計画が平成 25 年度～平成 29 年度を計画期間として策定されている。</p>	<p>○世界遺産登録による観光客の急増や一部地域への集中により遺産価値が損なわれる可能性がある。 観光客数の増加に伴う、下水、ゴミなどによる地域の環境負担の増加が懸念される。 世界遺産登録による効果が一過性の現象に留まり、地域の持続可能な観光振興に寄与しない可能性がある。</p>	<p>竹富町観光振興基本計画の策定【竹富町】 大自然島おこし基本計画の策定【竹富町】 公園利用等実態把握調査・検討【環境省】 登山道管理方針検討調査【環境省】 西表島の中小河川における植生実態調査【林野庁】 海岸林再生の指針作成調査【林野庁】</p>	<p>○竹富町観光振興基本計画が平成 25 年度～平成 29 年度を計画期間として策定され、観光資源の保護・保全・活用のための基本ルールづくりが方針として示されている。今後は、関係行政機関が目標や方針を共有し、連携と役割分担のもとで、その実現に向けた具体的な取組を進めていくことが期待される。 世界遺産登録による観光客数の増加による環境負荷の増大に対応可能な環境インフラの整備・充実にに向けた検討が必要である。</p>
<p>適切な利用コントロールの実現</p>	<p>○ヒナイ川においてはカヌー組合による自主ルールが設定されており、組合員の相互監視により自主ルールに基づいた利用コントロールが実施されている。 仲間川においては、沖縄県と観光事業者の間で保全利用協定が締結されており、協定に基づいた利用がなされている。 ヒナイ川、仲間川以外ではエコツアーに関する利用ルールが設定されていないため、無秩序な利用による遺産価値の損失や事故の発生が懸念される。 観光客の多くは日帰りの通過型マスツーリズムであり、エコツアーの利用者の多くも日帰りである。</p>	<p>○利用客の著しい増加、もしくは一部の地域への集中により、遺産価値が損なわれる可能性がある。 エコツアーが狩猟区域に侵入することにより、事故が発生する可能性がある。</p>	<p>○ヒナイ川周辺国有林の自然体験型ツアーによる利用実態調査【林野庁】 自主ルールの策定【西表島カヌー組合】 仲間川地区保全利用協定の締結【協定締結事業者】 浦内川地区保全利用協定の締結検討【協定締結事業者】</p>	<p>○ヒナイ川及び仲間川における自主ルール及び保全利用協定に基づいた利用コントロール等に関する効果検証、モニタリング等の継続的な実施が求められる。 西表島における利用のあり方について、観光事業者や地域住民、関係行政機関を集めて意見交換会が開催される予定であり、関係者が目標や方針を共有し、連携・協力のもとで持続的な利用の実現に向けた具体的な取組を進めていくことが期待される。 遺産価値の損失や事故の発生を防ぐために、利用エリア、時期、利用方法等、西表島でのエコツアーの実施に関する包括的な利用ルールの設定について、関係機関・団体の連携・協力のもとで検討を進める必要がある。</p>
<p>利用施設の整備・改善</p>	<p>○遺産価値を利用者に実感させるための拠点やフィールドの整備が不十分である。</p>	<p>○既存の限られた施設やフィールドでは、世界遺産登録により増加する利用者を受け入れられず、オーバーユースが発生する可能性がある。 既存の施設やフィールドだけでは利用者に遺産価値を十分実感させ、適切に伝えられない可能性がある。</p>	<p>西表石垣国立公園地域整備計画策定等調査事業【環境省】 沖縄振興交付金事業（利用施設の整備）【沖縄県、竹富町】 サキシマスオウノキ周辺環境整備【林野庁】 北船付川木道の整備【林野庁】 西表自然休養林歩道整備（ウトラ炭鉱跡）【林野庁】</p>	<p>○国立公園区域の見直しにおける関連の施設整備との調整を図りながら、関係行政機関の連携・協力のもとで必要な施設の整備・改善に向けた検討を進める必要がある。</p>

世界自然遺産登録に向けた課題	現状	将来的に発生する可能性がある問題点	これまでの取組	取組の成果及び今後の課題
<p>利用の質を高めるための取組の強化</p>	<p>○遺産価値の保全と利用を両立しながら、利用者に満足感を与える利用形態として、エコツーリズムの推進に向けた取組が進められている。エコツアーガイドが近年大幅に増加している傾向が見受けられるが、エコツアーガイドを管理する仕組みがないため、ガイドの実態が十分把握されていない。</p>	<p>世界遺産の価値を利用者に十分伝えられず、世界遺産に対する利用者の期待に応えられなければ、持続可能な利用は達成できない可能性がある。世界遺産登録を機に新規ガイドが増加し、利用の質が低下する可能性がある。</p>	<p>木道適正利用のためのガイド講習会の開催【林野庁】 自主ルール策定の策定【西表島カヌー組合】 仲間川地区保全利用協定の締結【沖縄県・協定締結事業者】 エコツーリズムガイドラインの作成【沖縄県】 ○エコツーリズム推進アドバイザー派遣事業【環境省】 ガイド認定制度カリキュラムの作成【竹富町】 安全管理講習会・ワークショップ【環境省】 世界に通用する観光人材育成事業【沖縄県】 文化継承・普及事業【文化庁】</p>	<p>○ガイド認定制度カリキュラムの作成などによりエツーリズムの推進が図られてきたが、今後は、ガイド認定制度の構築やガイド人材育成等のより具体的な取組が、関係行政機関の連携・協力のもとで進められることが期待される。西表島憲章のような西表島全体の利用にかかるルール・マナーの制定と各利用形態に応じたルール・マナーの作成・統一、これらのルール・マナー等が各事業者及び利用者に公平に履行される仕組みの検討が必要である。</p>
(5) 地域社会の参加と協働による保安全管理と持続的な地域社会の発展への寄与				
<p>公共事業における有効な環境配慮の実施</p>	<p>県道白浜南風見線の整備に際して、生態系に配慮したエコロード事業が行われており、「緑化・野生生物保全ハンドブック」に基づいた環境配慮がなされているが、現在でも交通事故が発生している。</p>	<p>世界遺産登録による観光客の増加により、希少種の交通事故が増加する可能性がある。 ○観光客の増加に伴い環境インフラ整備等の新たな公共事業が必要となった場合には、既存事業における環境保全措置に関する情報や技術の継承による効果的な環境配慮の実施が求められる可能性がある。</p>	<p>○県道白浜南風見線におけるエコロードの整備【沖縄県】 県道白浜南風見線 緑化・野生生物保全ハンドブックの作成【沖縄県】 海岸防災林整備事業【林野庁】</p>	<p>県道白浜南風見線におけるエコロード事業として実施されたアンダーパスの設置等の環境保全措置に対する効果検証を継続的に実施するとともに、さらに動物の侵入を防ぐための柵の設置など、動物の交通事故を減らすための、より効果的な対策の検討が必要である。既存の「緑化・野生生物保全ハンドブック」を参考として、今後必要となる環境インフラの整備等にも活用可能な環境配慮指針の策定について、関係行政機関の連携・協力のもとで検討を進める必要がある。西表石垣国立公園第3次点検の結果をふまえた国立公園の管理計画書を新たに作成し、風致景観や生物多様性保全に配慮した公共事業を推進していく必要がある。</p>
<p>遺産価値の保全と地域産業の振興との両立</p>	<p>○上原を中心に移住者による人口増加がみられる一方で、古見や祖納などは人口減少・高齢化が進行しているなど、集落間の格差や業種間の格差が広がってきている。農業が縮小傾向にあり、耕作放棄地が増加している。 ○遺産価値の保全と地域産業の振興との両立をモニタリングする仕組みを確立していない。</p>	<p>○遺産価値の保全と地域産業の両立の方針が明確に示されていない場合は、産業活動により遺産価値が損なわれる可能性があり、一方で、地域の産業や経済活動が縮小し、地域社会が維持できなければ、地域社会による遺産価値の保全・管理が継続できなくなる可能性がある。</p>	<p>大自然島おこし基本計画の策定【竹富町】 第4次竹富町国土利用計画の策定【竹富町】 八重山広域市町村圏 第3次総合計画の策定【八重山広域市町村圏事務組合】</p>	<p>○地元自治体の行政計画には「自然との共生」の理念がうたわれており、今後は世界自然遺産登録に向けた施策の展開についても具体的方針が示されることが期待される。世界遺産を活用したブランディングにより波及効果の拡大を図る必要がある。</p>
<p>遺産価値の保全と地域文化の継承との調整</p>	<p>○西表島には500年以上に及ぶ稲作の歴史があり、その節目ごとに執り行う祭事が受け継がれている一方で、自然を持続的に利用するための伝統的な智恵が失われつつある。</p>	<p>自然への畏怖や賢明な利用に根差した地域固有の文化が継承されなければ、遺産価値の保全と持続的な地域社会の発展の両立が図れない可能性がある。</p>	<p>○西表島における人と森林との歴史に関する調査【林野庁】 竹富町の自然と文化の集いの開催【環境省】 西表の文化を紹介したパンフレットの作成【西表島エコツーリズム協会】</p>	<p>○地域の伝統的な自然利用に関する情報収集を行い、世界遺産の管理や国立公園制度との関連を整理する必要がある。また、整理した情報を元に、地域の伝統・文化に裏付けられた知恵や技術の世界遺産の管理への効果的活用や、地域文化の継承と公園制度との調整等の具体的方法・内容について検討を行う必要がある。</p>

世界自然遺産登録に向けた課題	現状	将来的に発生する可能性のある問題点	これまでの取組	取組の成果及び今後の課題
<p>地域住民の理解醸成・協力体制の確保</p>	<p>○世界自然遺産候補地としての価値や、世界遺産登録によるメリット、デメリットが地域住民に十分には理解されていない。</p>	<p>地域住民の理解と協力がなければ、世界遺産の登録や価値の保全と適正な管理は実現しない。</p>	<p>普及啓発パンフレットの作成【環境省】 自然環境教育カリキュラムの作成【林野庁】 世界自然遺産研究会の開催【竹富町観光協会】 国有林クリーン活動の実施【林野庁、竹富町、八重山警察署等】</p>	<p>○世界自然遺産の目的、奄美・琉球としての遺産価値とは何か、世界遺産の登録後の効果や影響、遺産価値の保全・管理・利用に関する地域住民の役割や関わり方など、より具体的な内容について、より広範な人々に対して、より分かりやすい情報を提供することにより、世界遺産に対する地域住民の関心と理解の向上に向けた積極的な取組を継続していく必要がある。</p> <p>地域住民の視点から世界遺産と地域との関わりに関する課題を抽出し、課題解決に向けた対応を検討し、具体的取組を誘導、支援していくための組織や体制を確保する必要がある。(地域連絡会議等の住民参加・合意形成の仕組みづくり)</p>